



学校だより

みどりの

- 考え伝え合う子
- 心豊かな子
- 元気な子
- やりぬく子

令和5年3月1日

読書のすすめ

校長 遠藤 昌司

2月には子ども達が学校にいる時間帯に雪が降る日がありました。寒さをものともせず、校庭で雪だるまを作ったり、雪投げをしたりして、冬ならではの楽しみを味わっていました。ここへ来てようやく暖かな春の陽ざしを感じられるようになり、体育館と校舎の間にある梅の木も、ちらほら花を咲かせ始めています。先日の授業参観・懇談会では、この一年間の成長の様子をご覧いただきましたが、子ども達は卒業・進級に向け、学年の仕上げをしているところです。

学校の図書館にはたくさんの本がありますが、その中の一冊に『漫画 君たちはどう生きるか』という本があります。数年前に出版されたのですが、一年ほどで累計200万部を突破したほどに人気を集め、当時、NHKのニュースでも取り上げられていました。驚くことに、そもそもこの本の原作は、戦時色が濃くなり始めた昭和12年に出版されたもので、当時はベストセラーになったということです。

原作に即しているため時代背景などは当時のままになっているのですが、漫画の部分が多いため読みやすくなっています。「自分の生き方を決定できるのは、自分だけだ。」と表紙の部分に紹介があるように、深く考えさせられる内容も多いためか若者の気持ちに響いたようで、それは80年ほどの時を超えても色あせないものだったのでしょうか。

内容少し紹介しますと、主人公は15歳（当時の旧制中学二年）の本田潤一で、叔父さんからは「コペル君」と呼ばれており、それは地動説を唱えたコペルニクスからきています。多感な時期のコペル君は日々の生活の中で、学校でのいじめや友達に対する裏切りについて、人間同士のつながりについて、そして生き方について、悩み、考え、そのことを叔父さんに相談する中で自分なりの答えを見つけています。

お話の最後には、作者の吉野源三郎がこう問いかけて結んでいます。「君たちは、どう生きるか。」

学校評価アンケートに読書についての項目がありましたが、集計によると子ども達の読書について、保護者の方が物足りなさを感じられている傾向がありました。緑野小学校では今年度も制約が多い中、「おはなしの会」有志の皆さんのご協力のもと、朝の読み聞かせをしていただきました。子ども達がたくさんの本との出会いからも視野を広げていけるよう、声掛けをしていきたいと思えます。

また、ご存知の方もいると思いますが、今回紹介した『君たちはどう生きるか』、スタジオジブリが映画として制作中で、今年の7月に公開が予定されているそうです。子ども達へ数々の大きな感動を与えてきた宮崎駿監督が、どのような作品に仕上げるのか、楽しみです。